

“給”の文法的性格

— 「N1+gei+N2+V+N3」構文を中心に¹⁾ —

李 孟 娟

要旨

中国語の動詞“給(与える)”は、さまざまな用法をもつことが知られているが、その中には動詞の語彙的な意味を失った機能的なものが多いと考えられている。本稿は“給”構文の中でも、もっとも複雑な「N1+gei+N2+V+N3」構文を中心に、この構文に起こる多義の理由を探った。分析を通して、「N3 (DO)」に注目し、“給”の後の「N2」がモノの受け取り手と認識される場合、例文はモノの授与を表す構文となり、構文の中の「V+N3」、即ち動作行為を意味するところに注目し、“給”の後の「N2 (IO)」が行為の受け手と理解される場合、例文は行為の授与を示す構文となることが明らかになった。また、“給”の文法化する経緯を分析することで、“給”は真の介詞ではなく、“給～V”という動詞句の一部と判断することができた。

キーワード：モノの授与、行為の授与、モノの受け手マーカー、行為の受け手マーカー

はじめに

まず、以下の例文を見られたい。

(1) 我 给 老师 寄了 五本 书。

私 PREP 先生 送る -PERF 五冊 本

- a 私は先生に本を五冊送った。
- b 私は先生の代わりに本を五冊送った。

(2) 小李 给 小张 写了 一封 信。

李さん PREP 張さん 書く -PERF 一通 手紙

- a 李さんは張さんに一通の手紙を書いた。
- b 李さんは張さんの代わりに一通の手紙を書いた。

上の例文は日常生活の中でよく使われている文であるが、以上に示したようにどちらも二通りの意味をもつ。(1)は「先生のところに本を五冊送った」ともとれるし、「先生が忙しいから、私は先生の代わりに本を五冊送った」というようにも解釈できる。また、(2)は「張さん宛に手紙を一通書いた」と理解してもいいが、また「張さんが手紙を書くことができない時に李さんは張さんの代わりに手紙

を書いた」と理解してもいい。

では、どのような場合に上記の a のような意味になり、どのような場合に b のような意味になるのであろうか。少なからぬ先行研究のうち、多くは「それは場面が決める」と主張しているが、本稿は“給”の文法的性格を考察することで、「N1+gei+N2+V+N3」の構文における多義問題について、新たな見地をもたらしたい。

1 先行研究

1.1 太田 (1956)

太田 (1956:177-197) は“給”の文法的用法を通時的に考察している。この中で、現代中国語における“歧义”問題についても指摘している。

例えば：

(3) 我 给 你 写 信 [太田 (1956:189)]

私 PREP あなた 書く 手紙

- a 君の代りに手紙をかく。
- b 君に対して手紙をかく。

このように、例文の (3) は a と b の両方の意味を持つことが分かる。では、なぜこの二通りの意味が生じるのであろうか。太田 (1956:189) は、「もともとこの句は、『僕が手紙を書くということ』を君にあたえる—という意味、つまり、僕が君のために手紙をかくという意味にすぎない。であるから誰にあてた手紙をかいてもよいのである。もし、手紙の宛名を考慮すると (イ) 僕が君の為に『彼に当てた』手紙をかく (ロ) 僕が君の為に『君に当てた』手紙をかくの二つの場合が生ずる」と解釈している。

太田 (1956:177-197) は、「動詞」としての語源の共通点及び現代北京語における用法に着目し、“給”の共時的な品詞性に関しては分析していないが、太田 (1958:256) は (3) のような“給”に限って介詞と指摘している。

1.2 施関滄 (1981)

施関滄 (1981:33) は、「N1+gei+N2+V+N3」構文と「N1+V+N3+gei+N2」構文を比較分析し、二つの構文の相違点に言及している。

例えば：

(4) 我 给 妹妹 买了 一辆 车。

私 PREP 妹 買う -PERF 一台 車

(5) 我 买了 一辆 车 给 妹妹。

私 買う -PERF 一台 車 与える 妹

上記の(4)は本稿で扱う「N1+gei+N2+V+N3」構文に相当するが、(5)は「N1+V+N3+gei+N2」構文に相当する例文である。施関滄(1981:33)によると、(4)は「妹がお金を出して、私はただ妹の代わりに車を買ってやった」と「私はお金を出して車を買って妹にあげた」と二通りの解釈ができる。それに対して、(5)は後者の意味、すなわち「私はお金を出して車を買って妹にあげた」という意味しか表さない。

その理由に関して施関滄(1981:33)は以下のように主張している。

在前一句中，“给”不能解释为一个实际的动作或过程，意义颇为虚灵，只表示一种关系或介绍的语法意义。……可是“我买了一辆车给妹妹”里的“给”，表示的则完全是一个实际的动作或过程，所以它是动词。(前の文(筆者注:(4))では、“给”が実際の動作や過程と解釈することができず、意味的には非常に空虚であり、ただ一種の関係や割り当てる文法的な意味だけを表す。……しかし、“我买了一辆车给妹妹(筆者注:(5))”の中の“给”は完全に実際の動作や過程を表すため、“给”は動詞である)²⁾。

また、(4)の二通りの意味について、施関滄(1981:33)は

如当这个句子理解为“帮她带买”义时，句中的“给”可以用介词“替”来替换；理解为“买了给妹妹”义时，句中的“给”难以用别的介词来替换，而只能用“给”——作为介词的“给”，它的作用仅仅是把给予的对象介绍给其后的“买了一辆车”(この文(筆者注:(4))は、「妹の代わりに買ってあげた」という意味に理解する場合、文中の“给”は介詞の“替”に取り換えることができる。一方、文を「車を買って妹にあげた」という意味に解釈する場合は、“给”を他の介詞に取り換えることは難しく、“给”しか使えない。一介詞としての“给”の役割はただ授与対象をその後の“买了一辆车”(一台の車を買った)に割り当てる働きしか認めない)³⁾。

と分析し、“替”との交換の可能性の是非に関わらず、動詞に先行する“给”を介詞とみなしている。

1.3 木村(2012)

木村(2012:214-235)は、授与動詞“给”が受影文中の動作の主体をマークする機能と使役文中の受動者をマークする機能を両方とも獲得するという現象に対し、授与動詞“给”の文法化と意味拡張のプロセスを考察し、一見対極的に見えるこの2種類の関与者マーカーがともに1つの“给”によってもたらされることの意味論的動機を明らかにするものである。

この中で、本研究と関係するところは受影文中の動作の主体をマークする機能の獲得するプロセスである。具体的に言えば、“给”が授与動詞から授与目標マーカーへ、そして授与目標マーカーから受益者マーカーへという意味拡張の過程である。

例えば：

- (6) 小红 给 他 一百 块 钱。 木村(2012:224)
 シャオホン 与える 彼 100 元 金

[シヤオホンは彼に 100 元の金を与えた。]

(7) 小红 给 小王 送来了 一 封 信。 木村 (2012:225)

シヤオホン PREP 王くん 届ける - 来る - PERF 1 通 手紙

[シヤオホンは王くんに手紙を 1 通届けにきた。]

(8) 妈 给 他 开 门。 木村 (2012:228)

母 PREP 彼 開く ドア

[母は彼にドアを開けてやった。]

上記の例文 (6) は授与動詞としての“给”の一般的な用法である。(7) で完了を表すアスペクトの“了”が“送来”に結びついていることからもうかがえるように、“送来”が主要動詞であり、“给”は本動詞の用法から授与目標である“小王”をマークするという用法に変わる。また (8) では、“他”は“门”(ドア)の受け取り手ではなく、“开门”(ドアを開ける)という動作行為がもたらす利益を与える対象であり、即ち「受益者」である。木村 (2012:229) は「動作行為がもたらす抽象的な影響の受け手を導く受益者マーカーの用法は、動作行為の直接の関与物である具体物(モノ)の受け手を導く授与目標マーカーからの拡張である」と指摘している。

木村 (2012:214-235) は“给”の文法化について明確に説明しているが、“歧义”問題に関しては言及していない。例えば上記の (7) のような例文は、もし結果補語の“来”を省くと次のような例文になる。

(9) 小红 给 小王 送了 一 封 信。

シヤオホン PREP 王くん 届ける - PERF 1 通 手紙

a シヤオホンは王くんに手紙を 1 通届けた。

b シヤオホンは王くんの代わりに手紙を 1 通届けた。

上に示したように、例文 (9) は a と b の 2 つの意味に解釈できる。では、なぜ a と b のような意味が生じるのか。どのような場合に a のような意味になると考えるべきか、どのような場合に b のような意味になると理解してよいのか。この点について細かく分析する必要がある。

2 “给”の文法化について

本節では、“给”の授与動詞からモノの受け手マーカーへ、そしてモノの受け手マーカーから行為の受け手マーカーへの文法化のプロセスを分析しながら、「N1+gei+N2+V+N3」構文における多義性の理由を明らかにする。

2.1 授与動詞からモノの受け手マーカーへ

授与動詞としての“给”の用法には取り立てて問題となるようなものはない。二項他動詞の“给”は (10) のように、二重目的語構文を構成し、人物 N1 が自らの所有物 N3 を他者 N2 に「与える」という行為を示すものである。目的語の語順は間接目的語 (N2) が直接目的語 (N3) に先行する。

(10) N1 + 給 + N2 + N3

小王 给了 小李 一支 圆珠笔。
 王さん 与える - PERF 李さん 一本 ボールペン
 王さんは李さんにボールペンを一本あげた。

この授与動詞の用法はモノの移動が発生する。例えば(10)の場合は、もともと“小王”の所有物である“圆珠笔(ボールペン)”が“給(与える)”という行為によって、“小王”のところから“小李”のところへと移動し、“小李”の物となることが分かる。モノの移動を伴い、モノの授与が完成するということである。

では、次の例文を見てみよう。

(11) 妈妈 给 弟弟 汇了 两千 块 钱。

母 PREP 弟 送金する - PERF 2000 元 金
 母は弟に2000元を送金した。

例文の(11)は意味的には「母が弟にお金を与える」という授与の意味を表すが、例文の(10)と比べると、“給”の用法が異なる。1.3でも触れたように、完了を表すアスペクトの“了”が“汇(送金する)”につくということは、“汇”が主要動詞であり、“給”が動詞本来の機能を失い、モノの受け取り手を導く機能だけを担うことを表している。木村(2012:225)はこの種の“給”を「授与目標マーカ―」と呼ぶが、筆者は仮に「モノの受け手マーカ―」と呼ぶ。

さて、(11)のような例文は“給”の用法が変化しており、モノの移動が行われていることが分かる。具体的に言えば、(11)の場合は、“两千块钱(2000元)”は“汇(送金する)”という授与の行為によって、母から弟のところへと移動し、モノの授与が発生していると共にモノによる所有権の移動も見られると言えるだろう。

2.2 モノの受け手マーカ―から行為の受け手マーカ―へ

“給”には具体的なモノの受け取り手のほかに、動作行為の受け手を導く用法もある。例えば、

(12) 爸爸 给 小王 盖 被子。

父 PREP 王くん かける 布団
 父は王くん布団をかけてやる。

2.1で取り上げた例文(10)や(11)では、“給”の後に位置するN2(間接目的語)がいずれもモノの受け取り手である。それに対し、(12)の間接目的語である“小王(王くん)”は“被子(布団)”の受け取り手ではないことが明らかである。言い換えてみると、“小王”はモノの授与目標ではなく、“盖被子(布団をかける)”という動作行為の受け手である。ここの“給”の用法を仮に「行為の受け手マーカ―」と呼ぶ。

さらに、(12)が上記の例文(10)や(11)に比べて、もう1つ異なることはモノの移動が見られるが、

所有権の移動が見られないという点である。このように、(12)のような構文では“給”の用法がモノの授与から行為の授与へと変化していることが窺える。

2.3 「N1+gei+N2+V+N3」構文の多義性

では、はじめのところで言及した例文をもう一度見てみよう。

(13) 我 给 老师 寄了 五本 书。 [同(1) p241]

私 PREP 先生 郵送する - PERF 五冊 本

- a 私は先生に本を五冊送った。
- b 私は先生の代わりに本を五冊送った。

上記の(13)が示すように、この例文は「私は先生に本を五冊送った」と「私は先生の代わりに本を五冊送った」という二通りの意味がある。まず、aの意味から分析する。意味論の観点から見ると、“我给老师寄了五本书。(私は先生に本を五冊送った)”という文では、“老师(先生)”が“寄(送る)”という行為の目標であり、必要不可欠な存在である。なぜなら、この文は“老师(先生)”を省略すると、「誰に送るか」が不明となり、文は成立できない。つまり、“老师(先生)”はこの文の授与目標であり、“寄书”という出来事の直接の参加者とも言えるであろう。

また、“我给老师寄了五本书”という文が「私は先生に本を五冊送った」という意味に解釈される場合、“五本书(五冊の本)”が注目され、“寄(送る)”という動作行為によって、主語の“我(私)”のところから“老师(先生)”のところへと移動することも含意される。その点が授与動詞としての“给”の用法と同様であるため、(13)のような「モノの授与」という用法は授与動詞としての意味的性格を依然として色濃く留めていることが窺える。

なお、ここの“给”の役割はモノの受け取り手を導くことと考えられる。

一方、bの“我给老师寄了五本书(私は先生の代わりに本を五冊送った)”という意味では、“老师(先生)”がモノの受け取り手よりは行為の受け手と考えるべきではないだろうか。「先生が忙しいから、私は先生の代わりに本を五冊送った」というのは、“老师(先生)”がただ“我寄书(私は本を送る)”の理由或いは動機であり、“寄书”という動作行為と直接関与しない。事実、この文は「結局、本は誰に送ったのだろうか」という点に関しては、不明瞭のままである。従って、bの“老师(先生)”は“寄书”という出来事の間接的な参加者であることが分かる。この点はaの表す意味と対照的である。

また上で示したように、bは先生の代わりに、“我寄书(私は本を送る)”という行為にしか関心を寄せていないため、「本の行方」には無関心である。そのため、ここの“老师(先生)”は“五本书(五冊の本)”というモノの受け取り手ではなく、“我寄书(私は本を送る)”という動作行為の受け手である。この点に関してもaと異なる。

なお、bの意味を表す場合の“给”の役割は行為の受け手を導くことと思われる。

以上の分析から分かるように、(13)のような多義性が生じる例文は、文の中のモノに注目し、“给”の後の間接目的語がモノの受け取り手と認識されると、例文はaのようなモノの授与を表す構文となる。ここの“给”はモノの受け取り手マーカ―という役割を担う。文の中の行為を表す部分に注目し、“给”の後の間接目的語が行為の受け手と理解されると、例文はbのような行為の授与を示す構

文となる。そして、この場合の“給”の役割は行為の受け手を導くことであると言えよう。

以上に示した例文の他に、例えば“你给他打电话 (a あなたは彼に電話しなさい、b あなたは彼の代わりに電話してあげなさい)”、“小张给小李捎口信 (a 張さんは李さんに伝言をする、b 張さんは李さんの代わりに伝言してあげる)”のような文でも多義性が生じる⁴⁾。では、すべての「N1+gei+N2+V+N3」構文が2つの意味を持つかという、そうではない。

例えば、“医生给小王打针 (お医者さんは王さんに注射する)”や“妈妈给孩子喂奶 (母は子供にミルクをあげる)”は1つの意味しか取れない。何故なら、“給”の後の間接目的語が、行為の受け手としての解釈とモノの受け取り手としての解釈のいずれか一方だけが可能であるからである。では、どのような場合に文が二通りの意味を持ち、どのような場合に一つの意味しか表さないのだろうか。この問題については次の論考に譲る。

さて、例文の(7)と(9)はどのように異なるのか。なぜ例文の(7)が一つの意味しか表さないことに対して、(9)は二つの意味を示すことができるのだろうか。

(14) 小红 给 小王 送来了 一 封 信。 [同(7)p244]
 シヤオホン PREP 王くん 届ける-来る-PERF 1 通 手紙
 [シヤオホンは王くんの手紙を1通届けにきた。]

(15) 小红 给 小王 送了 一 封 信。 [同(9)p244]
 シヤオホン PREP 王くん 届ける-PERF 1 通 手紙
 a シヤオホンは王くんの手紙を1通届けた。
 b シヤオホンは王くんの代わりに手紙を1通届けた。

(14)は(7)に相当する例文であるが、(15)は(9)に相当する。(14)は(15)と比較すると、後の「V-送了(届けた)」が“来(くる)”という方向を表す補語があることが分かる。なぜ、“来(くる)”があると、例文はbのような意味が示せないのだろうか。実は(15)も(13)と同じように、bという意味を表す場合、“小王(王くん)”は“送信(手紙を届ける)”という出来事の間接的参加者であり、「手紙を誰に届けるか」については分からないからである。しかし、方向を表す補語の“来(くる)”があると、(14)のような例文となり、「手紙の届け先」は他の誰でもなく、“小王(王くん)”のところに「届けにくる」と限定される。すなわち、“来(くる)”があると、bの意味が出にくいと考えられる。同様に、例文の(13)は“去(いく)”という方向を表す補語が「V-寄了(送った)」につくと、aの意味しか理解できないことも言い添えておく。

(16) 我 给 老师 寄去了 五本 书。
 私 PREP 先生 郵送して-いく-PERF 五冊 本
 a 私は先生に本を五冊送った。
 *b 私は先生の代わりに本を五冊送った。

3 “给”の品詞性

“给”の品詞性については、これまでも複数の言語学者が言及している。「N1+gei+N2+V+N3」という構文の中の“给”に関して朱徳熙 (1979:1-3) は、“给”が動詞であると指摘する。しかし、ほとんどの研究者は“给”が介詞であると断定している。中でも、盧涛 (1993:60-69) と袁明軍 (1997:138-150) が代表的である。中国語の介詞の文法的特徴はよく知られているように、もともとは動詞であったが、介詞に変わると、以前の動詞の特徴が失われることである。

本節では、動詞の判定に有利な“了”“着”“过”のような助詞や“过来”“过去”“上”“下”のような補語、“不”という否定を表す副詞、そして“能”のような助動詞を利用し、本動詞の“给”の用法及び“把”構文と比較しながら、「モノの受け手」及び「行為の受け手」をマークする“给”の品詞性を探る。例文 (17) は二項他動詞としての“给”であり、例文 (18) は「モノの受け取り手」を導く機能語としての“给”であり、そして (19) は「行為の受け手」を導く機能語化の“给”と見られる⁵⁾。

- (17) 小张给小王毛衣。(張さんは王さんにセーターをあげる。)
 (18) 小张给小王送来毛衣。(張さんは王さんにセーターを送ってくる。)
 (19) 小张给小王织毛衣。(張さんは王さんにセーターを編んでやる。)

まず、完了相を表す“了”や進行相を表す“着”と経験を表す“过”のような助詞を用い考察する。

- (20) 小张给了小王毛衣。(張さんは王さんにセーターをあげた。)
 (21) *a 小张给了小王送来毛衣。
 b 小张给小王送来了毛衣。(張さんは王さんにセーターを送ってきた。)
 (22) *a 小张给了小王织一件毛衣。
 b 小张给小王织了一件毛衣。(張さんは王さんにセーターを一枚編んでやった。)
 (23)? 小张给着我毛衣。(? 張さんは王さんにセーターをあげている。)⁶⁾
 (24) *a 小张给着小王送来毛衣。
 b 小张给小王送(来)着毛衣。(張さんは王さんにセーターを送ってきている。)
 (25) *a 小张给着小王织毛衣。
 b 小张给小王织着毛衣。(張さんは王さんにセーターを編んでやっている。)
 (26) 小张给过小王毛衣。(張さんは王さんにセーターをあげたことがある。)
 (27) *a 小张给过小王送来毛衣。
 b 小张给小王送来过毛衣。(張さんは王さんにセーターを送ってきたことがある。)
 (28) *a 小张给过小王织毛衣。
 b 小张给小王织过毛衣。(張さんは王さんにセーターを編んでやったことがある。)

上記のテストからも分かるように、本動詞としての“给”の場合は進行相を表すアスペクトの“着”が結びつくとやや不自然になるが、“了”と“过”はすべて“给”の後につくことができる。一方、「モノの受け取り手」をマークする“给”の場合も「行為の受け手」をマークする“给”の場合も、アスペクトの“了”、“着”、“过”は、“给”より後の「V」を選択する。これらのことから、“给”が文法化の結果、動詞としての特徴が失われていることが窺える。

次は、本来の意味を持たない“把”と比較して“给”の品詞性の特徴を見る。

- (29) *a 小张把了毛衣弄坏。
 b 小张把毛衣弄坏了。(張さんはセーターを破った。)
- (30) *a 小张把着毛衣弄坏。
 *b 小张把毛衣弄坏着>(*張さんはセーターを破っている。)
- (31) *a 小张把过毛衣弄坏。
 b 小张把毛衣弄坏过。(張さんはセーターを破いたことがある。)

“把”も機能語としての“给”と同様、アスペクトの“了”や“过”は、後の「V」につくことが分かる。(30)が非文となる理由は“把”が処置を表す構文と見られ、意味的には進行相の“着”と矛盾し、文には成り立たないためである。

では、中国語の“过来”、“过去”、“上”、“下”のような後置要素はどうなるのだろうか。

- (32) *a 小张给过来小李拿一件毛衣。
 b 小张给小李拿过来一件毛衣。(張さんは李さんにセーターを1枚持ってきた。)
- (33) *a 小张把过去毛衣拿了。
 b 小张把毛衣拿过去了。(張さんはセーターを持っていった。)
- (34) *a 小张给上小李盖被子。
 b 小张给小李盖上被子。(張さんは李さんに布団をかけてやった。)
- (35) *a 小张把下被子撤去了。
 b 小张把被子撤下去了。(張さんは布団を片付けた。)

(32)は「モノの授与」の例文であり、(34)は「行為の授与」の例文であるが、いずれも“把”構文の(33)や(35)と同様に、“过来”、“过去”、“上”、“下”は、「V」の後に現れるのが自然であり、文が成立する。

次は打ち消しを表す副詞の“不”や可能を表す助動詞の“能”のような前置要素を利用し考察していく。

- (36) a 小张不给我送毛衣。(張さんは私にセーターを送ってくれない。)
 *b 小张给我不送毛衣。
- (37) a 小张能给我送毛衣。(張さんは私にセーターを送ることができる。)
 *b 小张给我能送毛衣。
- (38) a 小张不给我织毛衣。(張さんは私にセーターを編んでくれない。)
 *b 小张给我不织毛衣。
- (39) a 小张能给我织毛衣。(張さんは私にセーターを編むことができる。)
 *b 小张给我能织毛衣。
- (40) a 小张不把毛衣拿过来。(張さんはセーターを持って来ない。)
 *b 小张把毛衣不拿过来。
- (41) a 小张能把毛衣拿过来。(張さんはセーターを持って来ることができる。)
 *b 小张把毛衣能拿过来。

(36)も(38)も“不”が“给”の前に現れる。それと同様に、(37)と(39)の場合も“能”が“给”を伴っている。そこには、“把”構文の(40)と(41)と同様な振る舞いが見られる。

図に示すと、次のようになる。

	了	着	过	过来 过去	上 下	不	能
给 (本動詞)	+	?	+	φ	φ	+	+
给 ₁ ~V (モノの受け手)	-	-	-	-	-	+	+
给 ₂ ~V (行為の受け手)	-	-	-	-	-	+	+
把~V	-	-	-	-	-	+	+

“给”と“把”の文法的特徴の比較

以上の分析から、“给”が文法化することによって本動詞としての特徴が一部失われるが、動詞としての文法的性格はなお一部残っていることが分かる。そのため、“给”が真の介詞とは言えないと断定する。

“给”を単純に介詞と見るよりは、“给~V”の全体が動詞句を構成し、前置要素は“给”の前に、後続要素は「V」の後に現れると考えてもよいのではないだろうか。この特徴は、「モノの受け取り手」であっても「行為の受け手」であっても同じであると思われる。

おわりに

本稿は「N1+gei+N2+V+N3」構文に生じる多義性について、“給”の文法的役割を考察しながら、その理由を探るものである。

「N1+gei+N2+V+N3」構文において、「N3 (DO)」に注目し、“給”の後の間接目的語である「N2」がモノの受け取り手と認識される場合は、モノの授与を表す構文となる。しかし、構文の中の「V+N3」、即ち動作行為を意味するところに注目し、後の間接目的語「N2」が行為の受け手と理解される場合は、例文は行為の授与を示す構文となる。

“給”の文法的役割も、同じ「N1+gei+N2+V+N3」構文でも注目されることによって、モノの受け手マーカーから行為の受け手マーカーへと変化する。“給”の文法化の経緯を図示すれば、次のようになる。

授与動詞 > モノの受け手マーカー > 行為の受け手マーカー

本稿の最後に行った分析によって、「N1+gei+N2+V+N3」構文における“給”が真の介詞ではなく、“給～V”という動詞句の一部と判断できることも明らかになった。

注：

- 1) 「N1+gei+N2+V+N3」構文では、「N1」は文の主語を表し、「N2」は“給”の間接目的語 (IO) を表し、そして「N3」は“給”の直接目的語 (DO) を表すことを意味する。
- 2) [] 中の日本語の翻訳は筆者による。
- 3) 前掲注2) に同じ。
- 4) 「N1+gei+N2+V+N3」構文において、間接目的語の「N2」がモノの受け取り手としての解釈と行為の受け手としての解釈の両方が明示される場合はモノの受け取り手を導入する“給”が優先される。
- 5) (17)～(41)の例文は成立するか否かに関しては、筆者の判断ではなく、中国語話者の5名に聞き取りしたものである。
- 6) 「?」マークはやや不自然という意味をする。

参考文献

- 太田 辰夫 (1956) 『給』について』『神戸外大論叢』第7巻 第1～3号 神戸市外国語大学研究所 177-197
- 太田 辰夫 (1958) 『中国語歴史文法』 江南書院 256
- 木村 英樹 (2012) 「北京官話授与動詞“給”の文法化」『中国語文法の意味とカタチー「虚」的意味の形態化と構造化に関する研究ー』 白帝社 214-235
- 盧 涛 (1993) 『給』の機能語化について』『中国語学』NO.240 60-69
- 施 関滄 (1981) 「“給”的词性及与此相关的某些语法现象」『語文研究』第2輯
- 袁 明軍 (1997) 「与“給”字句相关的句法语义问题」『語言研究論叢』第7輯 語文出版社
- [馬慶株 (主編) 邱廣君 (副主編) 2007: 138-150 『汉语动词和动词性结构・二編』に再録]
- 朱 德熙 (1979) 「与动词“給”相关的句法问题」『方言』第2期 1-3

Grammatical characteristics of Chinese *gei* in the syntactic type:
'N1+*gei*+N2+V+N3'

Mengjuan LI

The Chinese verb *gei*, "to give", is known to have various usages, many of which are more functional than lexical, to the extent that they are often analysed as a preposition devoid of its semantic content as a verb. This paper focuses on the ambiguity of the object "N2" of *gei* in the construction type "N1+ *gei* +N2+V+N3". "N2" is interpreted as the recipient of "N3 (DO)" if the latter's transfer is implied, otherwise as the recipient of the effect of the event denoted by "V+N3", which on the whole may be regarded as the object of 'giving' denoted by *gei*. The syntactic distribution of the grammatical elements preceding and following the verb in both constructions is shown to indicate that the sequence of "*gei* +N+V" can be analysed as a verb complex in line with the "ba+N+V" construction with the preposed object.